

科目名	開講時期	開講学年	必修/選択	単位	時間
高齢者看護学実習Ⅱ	前後期	4年	必修	1単位	45h
担当教員名	メールアドレス		オフィスアワー		
◎高齢者看護学領域教員			必要時メールで事前にアポイントを取ること		
授業の概要					
高齢者看護学実習Ⅰが、地域で暮らす高齢者を対象としているのに対して、高齢者看護学実習Ⅱでは、疾病を持ち入院加療が必要な高齢者の特性と看護実践を学ぶ。看護ケアを通して看護師の役割と機能を学ぶ。					
キーワード	到達目標				
入院加療が必要な高齢者 療養生活 高齢者特有の病状、合併症 リスクマネジメント 高齢者のもてる力(潜在能力;残存機能) その人らしい生活 社会資源(医療介護・社会福祉サービス等) 高齢者とのコミュニケーション 環境整備・調整	<p>本科目のカリキュラムポリシー上の位置づけは以下の通りである。 NN-DCP2-1-2、NN-DCP2-1-3、NN-DCP2-2-1、NN-DCP2-3-2に該当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者特有の病状の悪化、合併症、転倒・転落等のリスクマネジメントを踏まえた看護計画が立案できる。 2. 高齢者のもてる力(潜在能力;残存機能)を活用し、その人らしい生活を支えるためのセルフケアに向けた療養中の生活援助を中心とした看護実践ができる。 3. 高齢者の療養生活への適応がスムーズとなるコミュニケーション、環境整備・調整ができる。 4. 高齢者に必要な社会資源(医療介護・社会福祉サービス等)について説明できる。 				
学習内容					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院施設に入院する受け持ち可能な高齢者を担当し、情報収集、コミュニケーション、環境整備・調整、バイタルサイン測定、ケア・処置の見学、ケアの実施をリスクマネジメントの観点から考える。 2. 受け持ち高齢者のもてる力(潜在能力;残存機能)をアセスメントした上での看護ケアを実施する。 3. カンファレンスを通して、受け持ち高齢者に必要な社会資源を考え、報告する。 					
受講要件					
2年次後期までの学年進度とされているすべての必修科目の単位を修得していること 受講要件:「基礎看護学実習Ⅱ」+当該領域の「概論」・「援助論」を修得していること。					
レポート	その他		合計		
0%	100%		100%		
教員からのメッセージ					
実習は全日程の出席を原則とし、実習2/3以上の出席をもって、評価対象となる。実習目的・実習目標の到達度及び態度を、評価表(100点)を用いての評価とする。事前に高齢者看護学に関連した科目の復習をし、知識を得た上で実習に臨むこと。遅刻の扱いについては、初回の授業にて説明する。					